

なし推奨品種「あきづき」の特性

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部・球磨農業研究所
担当者：大崎伸一・藤丸治

研究のねらい

「豊水」は本県なし全体の約31%、201haに栽培され、「新高」(29%)、「幸水」(25%)をしのごシェアを有している。しかし、関東産の「幸水」と市場で競合したり、商品価値をいちじるしく低下させるみつ症が発生しやすい等の問題点が多く経営の不安定要因となっている。

このため、これに替わる優良品種を選定し、なしの生産安定を図る。

研究の成果

< 来歴 >

なし「あきづき」は、農林水産省果樹試験場が昭和60年に、母：162-29(「新高」×「豊水」)×父：「幸水」の交雑実生により育成したもので、なし第6回系統適応性試験を経て平成10年になし農林19号として登録されたものである。

- 1 樹勢は「豊水」と同様に強く、新梢の発生量も多い。枝は「豊水」より太い。花芽の着生は、短果枝、腋花芽ともに「豊水」より少ない。
- 2 開花期は「豊水」とほぼ同時期で、「幸水」、「豊水」、「新高」に対して交配親和性を有する。
- 3 成熟期は「豊水」より3~6日程度遅く、平坦地域で9月上~中旬に出荷が可能である。
- 4 果実の大きさは「豊水」並みかやや大きく、揃いは良好である。
- 5 果肉硬度は「豊水」より硬いが、他の主要品種と比べると柔らかい部類に属する。果実の糖度は「豊水」よりやや高く、酸味は少なく、食味は良好である。
- 6 日持ち性は10~14日程度で「豊水」より短い。みつ症の発生はみられない。
- 7 収量性は、花芽の維持確保が「豊水」より難しいことから、やや劣る。

普及見込み面積：100ha(「豊水」の半分を本品種に替えて普及見込み)

普及上の留意点

- 1 腋花芽が着生しにくく短果枝花芽の維持が難しいので、予備枝せん定を多用するとともに、6月中~下旬頃の新梢誘引により花芽の確保に努める。

表1 樹体生育

品 種 名	地点 ¹⁾	樹勢	幹周 ²⁾ (cm)	枝の発生 密度	花芽の着生		開花期		収穫期	
					短果枝	腋花芽	始	終	始	終
あきづき	つくば	強	26.0	多	多~中	多	4/19	4/28	9/18	10/3
	松橋	強	29.7	多~中	少~中	中	4/ 3	4/12	8/30	9/16
	上村	強	28.8	多~中	少~中	少	4/ 4	4/16	8/29	9/ 9
豊水	つくば	中	21.5	多	中~多	多	4/18	5/ 2	9/10	9/21
	松橋	強	28.3	多	中	多	4/ 2	4/10	8/26	9/10
	上村	強	23.0	多	多	中~多	4/ 4	4/11	8/26	9/ 4

注：1) つくば：農林水産省果樹試験場（茨城県つくば市）松橋町：果樹研究所、上村：球磨農業研究所。
2) は平成10年の値、その他のデータは平成8～10年産の平均値。

表2 収量及び果実品質

品 種 名	地点	1樹当たり 累計収量 ¹⁾ (kg)	平均 果重 (g)	果肉		糖度 (%)	pH ²⁾	果形	果実の 揃い	日持 ち性	みつ症 の発生
				硬度 (lbs)	糖度 (%)						
あきづき	つくば	20.5	482	4.1	12.1	4.93	扁円	良	10~14	無	
	松橋	22.9	379	3.4	13.0	4.84	扁円	良	10~14	無	
	上村	11.2	450	3.8	13.2	4.96	扁円	良	10~14	無	
豊水	つくば	24.3	453	4.0	12.0	4.69	円	良	14	多	
	松橋	27.1	435	2.7	12.8	4.71	円	中	14	少	
	上村	13.3	367	3.0	12.0	4.72	円	良	14	少	

注) 1) のつくばは平成8～9年、松橋、上村は8～10年の累計、その他のデータは平成8～10年の平均値。
2) pHが小さいほど酸味を強く感じる。

表3 食味評価

品 種 名	食感	酸味	甘み	総合評価
あきづき	3.3	3.7	3.7	3.7
豊水	3.3	2.5	2.3	3.1

注) 評価は1～5までの5段階評価。数値が高いほど評価は高い。パネル6名。

表4 交配親和性

		あきづき
幸水	新興	
豊水	新興	

		あきづき
幸水	新高	
豊水	新高	

注) 「あきづき」の花()に交配した場合。

注) 「あきづき」的花粉()を交配した場合。

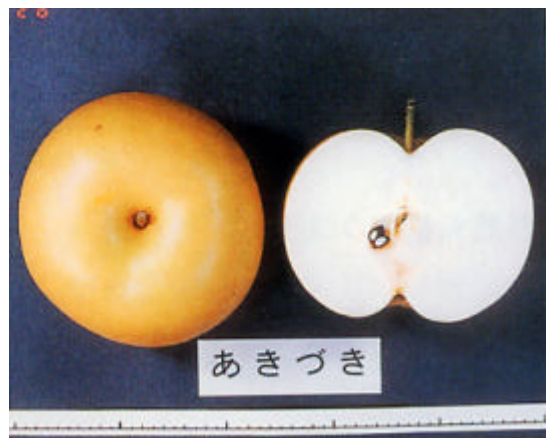


写真1 「あきづき」の果実